



「さわやかなマナーは他の人を幸せにし あなた自身を輝かせる」

山梨の自然風土，経済環境をふまえ，生産技術，電子技術，観光ビジネス，情報技術の4学科を備えた県立校としては全国7番目の産業技術短大校が本年4月開校しました。設立目的は「技術の進歩，産業構造の変動に対応できる高度な技術，技能，専門的な知識を併せ持った実践的技術者の育成」です。

人々が生活していく基本は 必要なものをつくり，交換し，流通させ，人と人との結びつきをつくりだしていくことだと思います。「生きる」ということは「ものをつくる」ことに始まり，究極的には「人づくり」にあると考えます。日本の社会にあって，また，生活様式の中で久しく「消費」が大きなウエイトを占めてきました。しかし今，「生きる」とは「文化」とは，「ものを，人を，つくる」ことではないだろうかと多くの人が改めて考え始めているのではないのでしょうか。

本校の志すところは，ものづくりの基礎を培うことであり，ものづくりのできる人材の育成です。また，だれもが心おだやかに，幸せを感じて過ごせる世の中であるためには，「思いやりや心遣い，英語でいえばホスピタリティ」が大切だと思います。このホスピタリティを観光ビジネス科の教育指針としています。全国的にみても数少ない学科ですが，豊かな，そして勝れた自然景観をもち，観光資源に恵まれた山梨において，「より専門的な教育訓練を通して，優秀な人材の育成」を行い，ひいては日本の観光産業を支える一助としたいと考えます。

社会，企業が即戦力となる技術技能者を必要としているとはいえ，雇う側にしてみれば，技術技能，専門的知識も重要ですが，誠実で好ましい行動のとれる人物を期待しています。社会で生活し，仕事をしていくにあたって心がけるべき態度，姿勢を訓練で養うべく，「さわやかなマナーは他の人を幸せにし，あなた自身を輝かせる」というモットーを常に

語りかけています。現代の若者は，自分の殻にとじこもりがちになったり，気が合うと思われるわずかな仲間とだけ交わり，自分の好き嫌いのみで判断し，自分だけの尺度で考えて，人に迷惑がかからなければ何をしようと勝手だと思っているふしがあります。さまざまな人との交わりの中で生きていることを認識し，それにきちんと対応できるマナーが訓練されていません。別の面からみると，他の人々にどれだけ「やっかいになり，支えられているか」を知らず，それ故に，感謝の気持ちも特には感じていないのでしょうか。「自立とは，社会への責任と義務を果たしうる能力と自覚を備えていること」といわれます。個性と勝手とを，とかく思い違いをしているむきがあります。前述の「自立」を認識してほしいと考えています。これも仕事をすることによって，あるいはそれに向けての訓練を通して身につけていくものと考えます。

高校教員の経験の中で「何でも200回だよ」とよく言ってきました。学習も練習も躓も200回と繰り返すもので，「200回の先生はいますか」と職員室の入口で生徒が呼ぶこともありました。「訓練200回」「さわやかなマナーは他の人を幸せにし，あなた自身を輝かせる」を口ぐせに，学生にぶつかり接していきたいと考えています。

「仕事が人をつくる」と言いますが，若者達が「専門教育を通じてより実践的な人材，知恵豊かな情の厚い人」に育ってくれることを願っています。

かとう まさあき

略歴 1958年 東京大学教育学部卒業
山梨県高校教員採用
1991年 山梨県立甲府西高校長
1993年 山梨県教育委員会教育長
1997年 山梨県教育委員会退職
1999年 現職